













柿しほいぶき 茸 と は
桂離宮書院・金閣寺・銀閣寺などで現存し
文化財や茶室で使われています。
ヒノキ科常緑針葉樹「榎さくら」や「杉」の幹を
3ミリに割った板を重ね、竹の釘で固定します。
中間に銅板をはさみ、降雨の際に水と混ぜる
銅イオンの作用で、腐食を少なくする方法が
とられています。

0000
○○○○○
○○○

⇕ 5センチ

下部を5センチ
ご記入

お願い
マジック
必ず

桂離宮書院・金閣寺・銀閣寺などにて現存し
柿茸こけらぶきとは
文化財や茶室で使われています。
ヒノキ科常緑針葉樹「榎」さわらや「杉」の幹を
3ミリに割った板を重ね、竹の釘で固定します。
中間に銅板をはさみ、降雨の際に水と混ぜる
銅イオンの作用で、腐食を少なくする方法が
とられています。



5センチ

下部を5センチあけて
ご記入ください。

お願い
マジックを使用されまして
必ずキャップをしめて
元の位置にお戻しく

こけらいた
「柿板」御志納のお願い

瑞龍寺は昭和六十年から平成八年に亘る伽藍復興整備事業により
国宝に指定されました。

しかし整備工事のあと二十余年がすぎ、傷みも目立ってまいり
特に柿葺き屋根の傷みが著しく、最近では雨漏りも確認されております。
柿葺き替えには多額の費用が予想されますので、ご参拝の皆様方には
是非、柿板の御志納をお願いいたします。

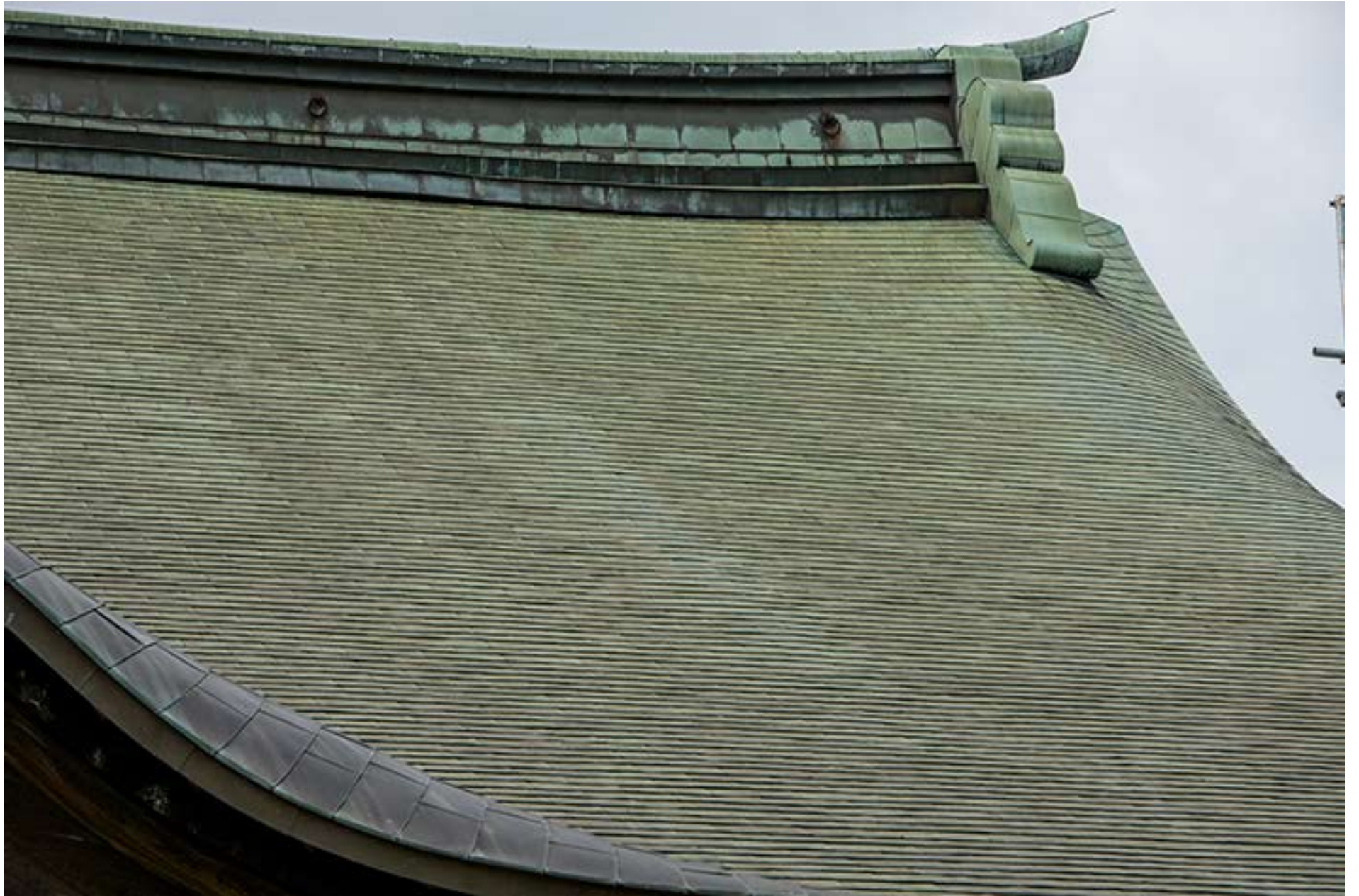
この板は屋根の葺き替えて使い、文化財の保存に役立てます。
この趣旨にご賛同いただけましたら幸いです。

柿板に、ご住所・お名前・祈願内容(家内安全等)をご記入ください。

一口 千円也



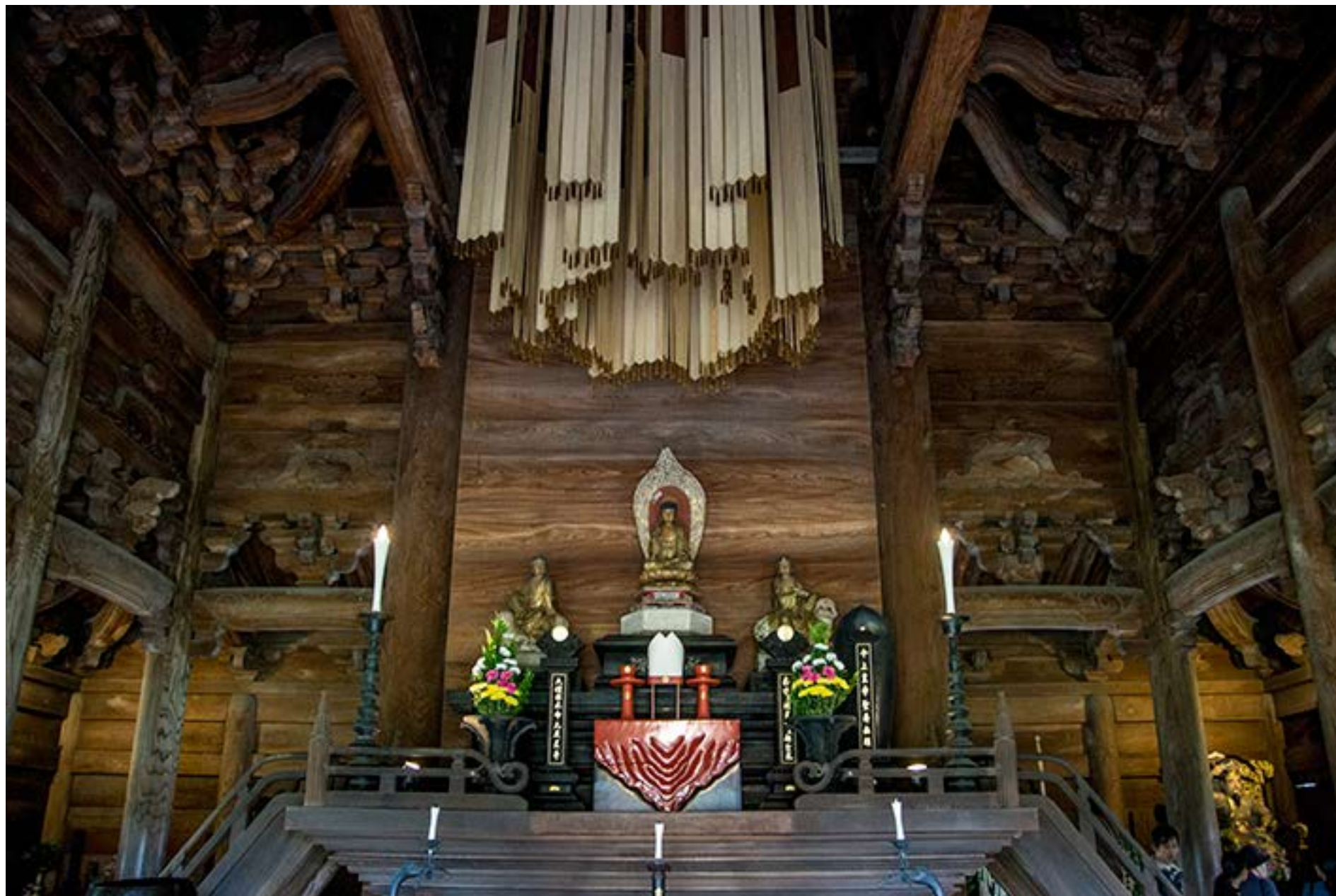














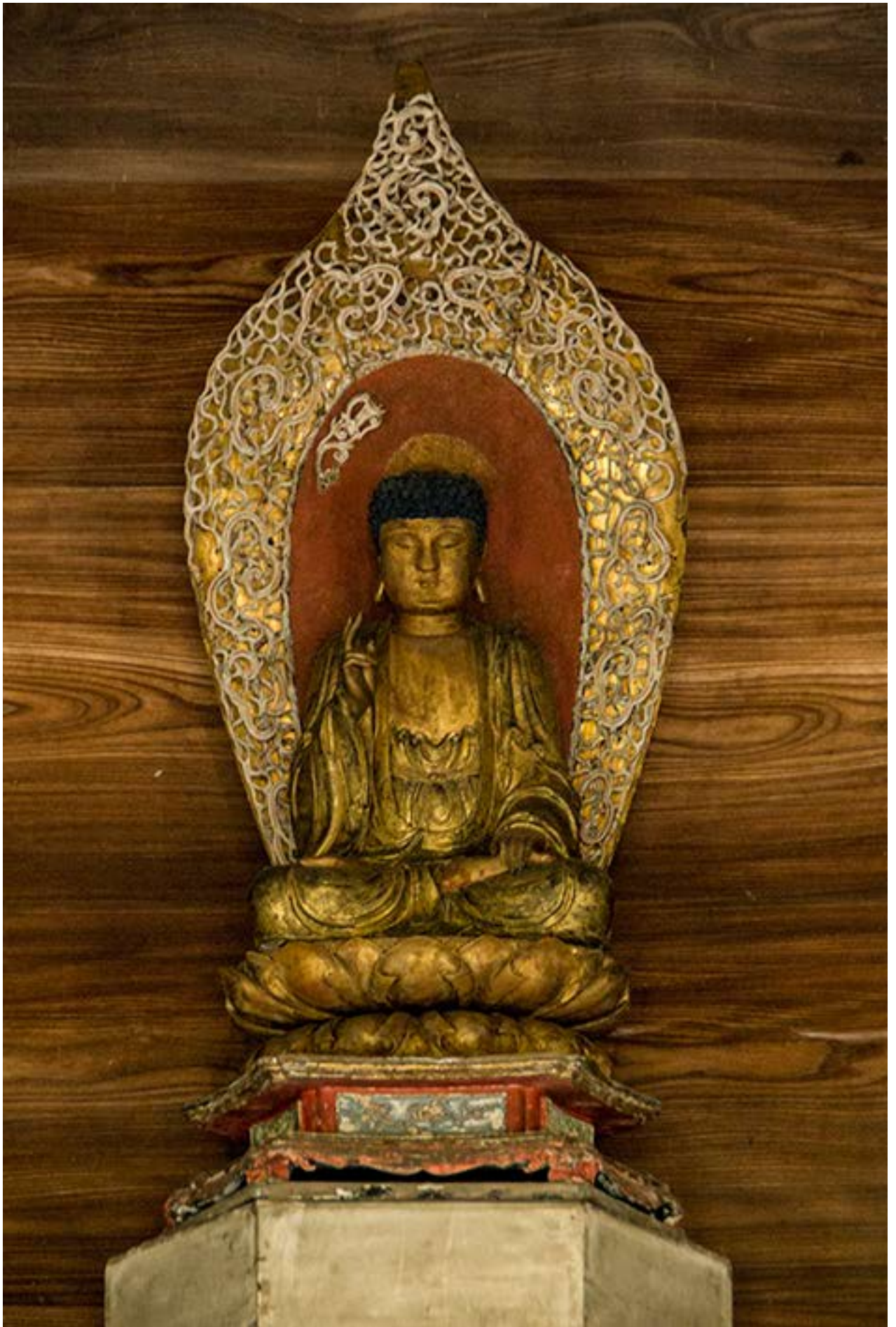




大權那木命元辰星主

南方之德星主大權那

今上皇帝聖壽無疆



富山県指定文化財

瑞龍寺石廟

前田利長公は本能寺の変後、浅田信長公父子の分骨を迎えてその霊を慰めたと伝えられる。利長公の菩提寺瑞龍寺を造営し、時、開山松山怒陽禪師が利長公父子も加えて同じ形式の五基を建造し、これが石廟の由来である。

廟の石材は、淡青色の凝灰石（俗称越前笏谷石）を用い、増上僧の基礎の上に立つ切妻造り石廟建築である。廟内の空位印塔は越前式の月輪装飾を施したもので、越前の国を源流とし、加賀能三州に分布している。

石廟は約200年、右から前田利長公・高田四郎越前田利家公（加賀藩祖越前信長公の長夫人玉の院の父・織田信長公側室越前田中氏公（信長公の子）の五人のもの、中でも利長公のものは壁面に二十五菩薩を刻んだ代表的な優品である。

約五基の石廟は地方政治史上、又石造建築史上の貴重な資料であるところから、昭和四十五年一月二日富山県指定文化財史跡に指定された。

寄贈 国際ソロプチミスト高岡 / 平成五年五月























東司の守護神
烏スサノ 薙ハゲ 沙サ 摩マ 明ミ 王ノミコト
烏薙沙摩明王





瑞龍寺伽藍配置図



瑞龍寺伽藍空撮

北日本新聞社撮影
 (注) 七堂浄土・法堂はCGによる合成

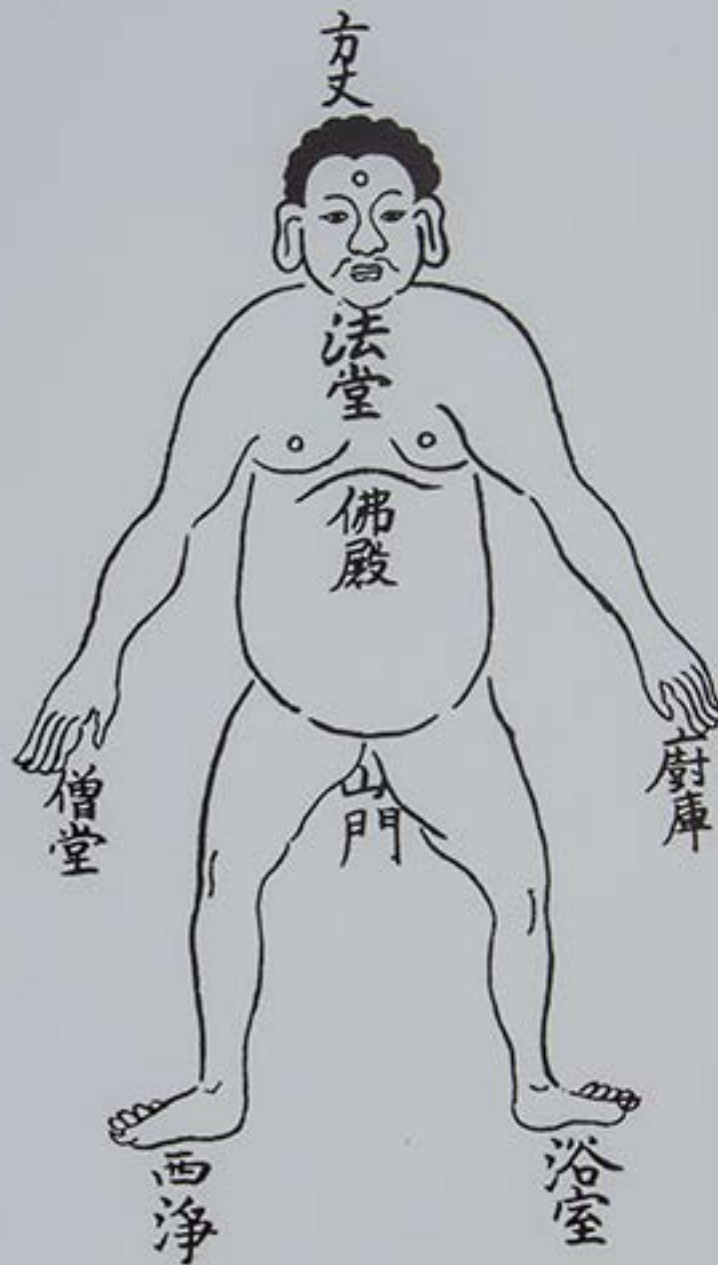


禅宗七堂伽藍人体表相図

永見市大塚大工『高橋家文書』の山上善右衛門が印可した秘伝書より

高岡ロータリークラブ60周年記念事業

配置図



禅宗七堂伽藍人体表相図

氷見市大窪大工『高橋家文書』の山上善右衛門が印可した秘伝書より

高岡ロータリークラブ 60 周年記念事業

高岡山 瑞龍寺沿革

曹洞宗高岡山瑞龍寺は加賀藩二代藩主前田利長公の菩提を弔うため三代藩主利常公によって建立された寺である。

利長公は高岡城を築城し、この地で亡くなった。

加賀百二十万石を譲られた異母弟利常公はその恩を感じ、時の名匠山上善右衛門嘉広をして禅宗建築の七堂伽藍を完備し、広山恕陽禅師をもって開山とされた。

造営は正保年間から、利長公の五十回忌の寛文三年(1663)まで約二十年の歳月を要して完成した。当時、寺域は三万六千坪(約十 万八千平方米)で周囲に壕をめぐらし、まさに城郭の姿を想わせるものがあつた。平成九年、山門、仏殿、法堂が国宝に指定され、禅堂、大庫裏、大茶堂、回廊が重文に追加指定となり江戸時代を代表する禅宗建築として高く評価されている。